MSUB　留学報告書

文学部英語英米文学科 3 年
小川広洋

1．はじめに

私がモンタナへの留学を決意したのは高校生の時でした。高校 2 年生の時に 3 週間モンタナ州のモンタナ大学を訪れ、州民の暖かさや充実した大学施設を目の当たりにし、将来はモンタナ州に留学したいと考えていました。また、私は大学 2 年生の後期から留学しましたが、大学入学時から変わらず英語教師になりたいという夢があり、そのために英語英米文学科での授業に加えて、現地でより実用的かつリアルな英語を習得することを目的としていました。この留学は私にとってとても貴重な体験で、今はこれらの目標以上の成果と成長を実感することができています。この報告書では、私がモンタナ州立大学ビリングス校に留学して体験した大学生活や学習内容を中心に、この留学を可能にしてくださった方々、またモンタナへの留学を考えている後輩の皆さんに報告いたします。

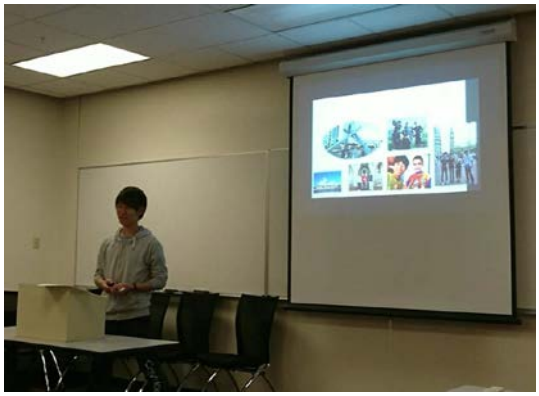
2．大学生活

モンタナ留学中は全ての留学生にホストファミリーが割り当てられていましたが、大学生活は二学期とも寮生活をしました。ダブルルームとシングルルームの選択が可能で、私はルームメイトを作ることができるダブルルームを選択していましたが、残念ながら二学期ともルームメイトを持つことはできませんでした。モンタナへの留学にかかわらず、アメリカへの留学を考えている皆さんには、寮費がダブルルームのほうが安いのに加え、ルームメイトを持つと英語の上達や文化交流が効率的になるのでぜひダブルルームを選択することをお勧めします。トイレやシャワーは別ですが、すべての部屋には冷暖房設備、洗面台、クローゼット等があり、9 か月間とても快適に過ごすことができました。また、寮生活をするにあったて、モンタナ州立大学ビリングス校ではミールプランというものも選択しなければなりませんでした。基本的に食事はバイキング形式のカフェテリアを使いますが、学内のスターバックスやカフェ等もあり、それらの使用頻度に応じてプランを選択することができました。私はシルバープランという一日に二回カフェテリアを利用することができるプランを選択しましたが、友達と食事に行ったり料理をしたりしていたのでちょうどよかったと感じます。カフェテリアでの食事に関しては、サラダやスープ、ドリンクバーに加え、ステーキやスパゲッティ、さらにはデザートなど様々な美味しい料理が食べ放題なので、それは日本の大学にはない利点だと感じます。

３．学習内容

私は熊本県立大学では、英語英米文学科に所属していて英語科の科目に加えて文学やコミュニケーションの勉強を中心にしています。モンタナ州立大学ビリングス校の留学では現地で取得した単位が熊本県立大学のものに交換できるので、私は現地でも言語学、文学、コミュニケーションを中心に時間割を編成しました。単位制度は日本と異なり、週 1 時間の授業につき 1 クレジットとなり、現地の学生でも 12 から 18 クレジットを取ることが基本でした。週に 3 時間ある授業もあれば体育系の授業は 1 時間で、時間割は比較的編成し易いと感じました。週 3 時間ある授業は月水金曜日にそれぞれ 1 時間ずつ、もしくは火木曜日に 1 時間半ずつの授業に分けられ、その分日本の大学に比べ、より専門的な分野でより深く大量の学習や研究が行われています。また、課題は教科書のリーディングやエッセイが大量にあり、特に私は文学の授業を取っていたので毎週リーディング課題に追われていました。そのため、前期では体育系の授業も含んで 12 クレジット、後期は体育系の授業を外して 15 クレジットを取得するように、少しずつ現地の学習に慣れるような時間割を編成しました。

私が取っていた授業の中で学習内容を紹介すると、まずどの授業でも小クラスでディスカッションをベースにした授業が行われていました。日本の大学では大勢の学生を相手に講義ベースの授業が行われることが多々ありますが、モンタナ州立大学ビリングス校でそのような授業を体験したことはありません。ただ、ディスカッションをするための課題やプレゼンテーションの準備などは大変で、準備ができていなければ積極的な授業参加をすることは難しいと思います。例えば私が取っていた文学の授業では、毎週指定された小説を読んで授業に出るのが当たり前で、内容確認は小テストで確認がある程度で、あとはほとんど内容を様々な観点からディスカッションをするという授業スタイルでした。エッセイ課題も多く、もちろん英語で基本 5 ページ以上のエッセイを書いていました。そのエッセイ課題のシェアやディスカッションをすることもあり、自分のアイディアを共有する能力を養うという点でとても生産的な授業が行われているなと感じていま



した。パブリックスピーキングの授業では、プレゼンテーションの方法を中心に様々なテクニックを学び、いわゆるプレゼンテーション能力を大きく伸ばすことができたと感じます。特に、『Made To Stick』という教科書ではどのようにして聞き手の頭に自分のアイディアを残すかということについて学び、それを活かしたプレゼンテーションをできるようになったと感じます。

４．課外活動

モンタナ州立大学ビリングス校で勉強する留学生はインターナショナルスチューデントと呼ばれ、マルチカルチュラルクラブという異文化交流クラブのようなものに入ることになります。私もそのクラブに入り、沢山の友達を作り、沢山のイベントに参加させていただきました。例えば、日本を紹介するプレゼンテーションをしたり、現地の幼稚園、保育園を訪れて簡単な折り紙や箸について紹介したり、また、市立図書館で日本文化をシェアするイベントに参加しました。特に印象に残っているのは大学のイベントの 1 つであるフードフェアと呼ばれる異文化の食べ物を体験するというイベントです。私は他の日本人留学生と共に、日本料理を代表する唐揚げとみそ汁を作りました。これはアメリカには様々な宗教を持ったインターナショナルスチューデントがいるので、牛肉と豚肉を使わないように考えたもので、多くの生徒や教授に楽しんでもらうことができ、とても充実した異文化交流の時間を過ごすことができました。

また私は、多くのインターナショナルスチューデントと仲良くなり、週に数回集まって大学のジムでフットサルをしていました。これは部活ではありませんが、とても熱を持った仲間が多く、仲間同士の喧嘩や言い争いなどは頻繁に起こり、とてもレベルの高い交流活動だったように思えます。特に、様々な異なる国から集まったインターナショナルスチューデントの間での英語はいわゆるリンガ・フランカとして機能し、そのおかげでアメリカだけではなく、アジアも含めた世界中の人の価値観や文化に触れることができたと思います。その点で留学する際にアメリカを選ぶと世界中の人との異文化交流ができるという利点があると感じます。

５．最後に

この留学を通して学んだことは計り知れず、留学をしてよかったと強く感じています。私は留学前や留学をするべきか悩んだ時期には不安なことが多くあり、同じように感じている人も多くいると思います。しかし、留学をして損をすることはありません。もちろんネガティブな体験もありましたが、すべて成長に繋がる良い経験だったと感じています。人間として成長し、将来やりたいことを明確にし、世界を知り、留学は言葉では語りきれないほど貴重な体験でした。また、この留学を可能にしてくださった熊本県立大学の皆様、モンタナ州立大学ビリングス校の皆様、支えてくださった後援会の皆様、友達、そして家族には深く感謝申し上げます。今後もモンタナへの留学で学んだことを最大限に活かして努力を重ねることを誓います。